

水陸萬頃

第10号



奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303
 いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

※水陸萬頃とは「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

頑張る若手を紹介します!

新規就農者や新米農業者、若手農業者グループが奮闘する姿を紹介する コーナーです。

佐々木賢さん（奥州市前沢）『牛飼いはじめました!』



前沢生まれ前沢育ち、非農家出身の佐々木賢さんは、車両系建設機械免許を持ち、以前は建設会社に勤めていました。友達の誘い?! というひょんなことから牛飼いになることを決意し、岩手ふるさと農協マイスター制度を活用して、繁殖農家で1年間研修を積み、令和2年に就農しました。

牛もおらず、牛舎もなく、ゼロからのスタートでしたが、知人から空き牛舎を貸してもらい、離農する農家から繁殖牛をまとめて譲ってもらい、初期投資を抑えながら繁殖牛23頭という異例の規模で経営を開始しました。

令和3年7月に初めて子牛を出荷し、その後は毎月1~2頭の子牛を上場しています。初年度となる令和3年は8頭を出荷し、平均以上の価格で販売しました。2年目の今年（令和4年）は20頭を出荷する予定です。

賢さんのところには、就農したばかりの人、就農を考えている人など、未来の担い手が集まってきます。商業高校を卒業しており、経理にも明るい賢さんは、自分の経験をもとに、経営的センスも踏まえた的確なアドバイスをするので、若い人々にとっては頼れる先輩のようです。飼料基盤をほぼ持たない賢さんが、就農して一番大変だったことは、堆肥の還元と言います。これから牛飼いはじめようとしている人には、まず堆肥の処理、還元の計画をしっかり立てることを必ず助言しているそうです。



実際に牛飼いになった感想を聞いてみると、「休みがないけれど、自分で仕事のスケジュールを組んで働くことができ、取りたいときに時間が取れるので自分にはとても合っている」と笑顔で答えてくれました。取材当日も、娘さんの保育園の行事があり、参加する予定とのことでした。

ゆくゆくは50頭規模に拡大し、奥さん や子供さんたちと一緒に牛の仕事をしたいと夢が膨らみます。

岩手県農業農村指導士認定期間満了者の紹介

令和3年度で岩手県農業農村指導士認定期間満了を迎えたのは県内で17名、そのうち奥州管内では、金ケ崎町の後藤正雄さんが認定期間満了となりました。

後藤正雄さんは、施設花き（アルストロメリア）、施設野菜（ハウレンソウ、小松菜）等、多品目を主に産直向けに出荷し、JA岩手ふるさと園芸部会長や和光地区活性化実行委員副委員長を歴任されるなど、農業振興、地域振興に貢献されてきました。



去る4月26日には、盛岡市において、認定期間を満了された方々へ、感謝状が贈呈されました。

後藤さんは、農業農村指導士の職を退かれることとなりますが、奥州地域における農業振興に、引き続きお力添えをいただきたいと思います。

ご意見番！指導士の声 飼料高騰と戦う！畜産農家編



農業農村農業士
高橋先雄さん

胆沢で和牛繁殖経営をしています。

頭数が増えるにつれ、粗飼料の確保と堆肥処理が課題となってきました。

堆肥もただ作ればいいのではなく、ペレット化して耕種農家が散布しやすい堆肥として販売できるような仕組みが必要と考えて動いています。

また、今年は稲ホールクroppサイレージの専用品種「つきはやか」の栽培にも挑戦しています。この品種は籾が少ない極短穂型品種で、県内では初の取組となり、良質粗飼料の確保に期待しているところです。

前沢で和牛一貫経営をしています。

雪害で牛舎が一部倒壊し、関係機関の協力を得ながら再建を検討していますが、資材高騰に直面しています。

また、枝肉・子牛相場の低下と、輸入飼料価格の高騰により、畜産経営が難しいフェーズに突入しています。

なので、原点回帰し、稲わらや稲ホールクroppサイレージ、転作牧草、飼料米など、もう一度地域資源を見直すことによって、難局を乗り越えていきたいと思っています。



青年農業士
保科俊徳さん

7～9月の作物ワンポイントアドバイス



水稲

- ・穂揃期前後の水管理は湛水にし、それ以後は間断かんがいを行いましょう。
- ・出穂後の高温時は日中は深水にし、入水は夜間に行い、稲体の温度を下げましょう。
- ・カメムシ類の発生は多い見込みです。適期に畦畔草刈りと薬剤防除を行いましょう。
- ・落水は出穂後30日から行いましょう。早期落水は品質低下につながります。

大豆

- ・生育期の除草剤散布は、発生する草種や発生量を確認し、効果のある剤を遅れずに散布しましょう。
- ・カメムシの被害が増えているので、マメシンクイガ防除は2回防除を基本とし、2回目はカメムシ類に効果のある薬剤を選択してください。

野菜

- ・明渠や暗渠について、排水がきちんと流れるか確認しましょう。
- ・収穫量、気象条件などを考慮して適切な追肥を行い、こまめなかん水をして、草勢を維持しましょう。
- ・ハウス果菜類では生育が旺盛になり、風通しが悪くなってきました。整枝や摘葉、誘引作業を遅れないように実施しましょう。
- ・病虫害防除を徹底しましょう。

果樹(りんご)

- ・病虫害防除薬剤の散布は、間隔が空きすぎないよう予防散布を徹底しましょう。また、散布ムラが無いように丁寧に散布しましょう。
- ・黒星病の発病葉や発病果を見つけた場合は、速やかに摘み取り、園地外に持ち出し、土中に埋設させるなど適切に処分しましょう。
- ・赤色品種の着色管理は、日焼けに十分注意し、作業が遅れがないようにしましょう。

花き

- ・りんどう、小ぎくとも防除暦を基本とし、適期散布に努め、場合により追加防除も検討しましょう。
- ・収穫後のりんどうは次年度の株の充実を図るため、収穫後防除の継続や養成茎の花蕾の摘み取りを行いましょう。
 - ・小ぎくは次年度の親株選抜に備え、収穫前に草丈の伸び、草姿、病害の発生程度をよく観察し、目印をつけ適正な株を選抜しましょう。

畜産〔牧草2番草の刈取注意点〕

- ・2番草の刈高の目安は“1番草より高めの15cm”としましょう。
- ・暑さが厳しいこの時期は、適切に刈取しないと牧草の再生力に影響します。
- ・極端に低い刈高は、イネ科牧草の再生不良やクローバの優占化、牧草の夏枯れなどを引き起こし、3番草や来年の1番草の収量減につながります。
- ・2番草の適切な刈取で、自給飼料を確保し、飼料価格高騰を乗り切りましょう。

普及員紹介 ～佐々木絢菜です！



採用3年目で、果樹の生産振興や、農業青年組織の活動支援等を担当しています。また、パソコンスキルを活かし所内のITサポーターでもあります。

小中学生の頃はサッカー、バレーボールに熱中、大学では「ツキノワグマ研究会」で県内外の山野を駆け回って野生鳥獣を調査した経験を持つなど、実は筋金入りのアウトドア派。本人曰く「人見知り」なそうですが、物怖じせず落ち着いた仕事ぶりはベテラン顔負けです。

ネコと日本史（日本酒？）が大好きな、誰にでも好かれる人柄で更なる活躍が期待される職員です。（阿部）



りんごの生産振興のため、日々研鑽中です。

胆江地方ニューファーマー大募集！

胆江地方農林業振興協議会では、主要品目（ピーマン、きゅうり、トマト、りんどう、りんご、水稻、畜産）で新たに就農を希望する方を募集し、「胆江地方ニューファーマー」として重点的に応援します。

お近くに就農を考えている方がいましたら、是非普及センターまでお知らせください！



就農相談窓口の日

時期・期間

毎月第2木曜日

(①13:30～、②15:00～)

内容

就農に向けた相談や情報収集したい方に対し、関係機関の担当者が相談に応じます。

申込み方法

相談日の3日前までに、事務局（普及センター）にお申込み下さい。

新規就農事例・農作業体験研修 開催予定日（品目）

7/29（きゅうり）、8/31（トマト）、
9/30（ピーマン）、10/31（ピーマン）

内容

先輩農家の話を聞いたり、実際に農作業を体験できる研修会です（2時間程度）。

申込み方法

詳細は事務局（普及センター）にお問い合わせ下さい。

明子の部屋

～佐藤所長のつぶやき



所長の佐藤明子です。今年度もミニ情報コーナー「明子の部屋」を掲載させていただくことになりました。引き続き、よろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍は続いていますが、5月30日に岩手緊急事態宣言が解除され、3年ぶりに行事や祭りなどが開催されるようになってきました。私もJA総代会や夏秋野菜出発式などに出席することができ、少しずつ日常の雰囲気を味わっています。今後も多くの方々とお会いできることを楽しみにしています。

また、今年度は水田を活用し、家畜の飼料向けの稲ホールクロープサイレージ専用品種や子実用トウモロコシなど新たな品目の栽培が始まっています。加工用ばれいしょも面積が増えつつあります。それぞれの経営試算を行うこととさせていただきますので、水田農業を考える一助としていただければと思っています。（明子）